

## 日本核医学技術学会第 29 回東北地方会総会学術大会開催に寄せて

日本核医学技術学会 東北地方会  
会長 羽田野政義

日本核医学技術学会 第 29 回東北地方会 総会学術大会を令和 6 年 9 月 21、22 日（土日）両日に、青森市にて開催される運びとなりました。心よりお祝い申し上げます。2019 年の新潟大会以来の 2 日間開催となります。コロナ禍を乗り越え、暮らし・学会が元に戻ってきたようです。同胞の志との交流を実感できるかと嬉しく思っております。

成田将崇大会長、佐藤匠実行委員長をはじめとした実行委員会の皆様のご尽力、東北地方会の核医学関連施設の先生方、企業の方々のご助力に厚く御礼を申し上げます。日頃の研究成果を持ち合い、議論し研鑽・交流を深める場として、これからの研究・臨床に役立つ知見を得て、本会の目的であります東北 6 県と新潟の核医学技術関係者の「研究と交流を進め」「会員の資質の向上と相互の親睦をはかる」ことをより深めるため、多くの方の参加をお願いいたします。

今回のテーマは、「核医学の匠を目指して」です。広く新しい核医学技術の深い理解と実践目指し、近年進んでおります「タスクシフトシェア」「Theranostics」に旧来の技術をも発展習得し、深めて未来へ進むテーマと思います。

今期 2024 年度の診療報酬改定ではアミロイド PET や F-18 フルシクロビンの保険導入が認められました。いずれも治療と一体の PET 検査となります。今後も治療と一体の核医学検査薬や内用治療薬が開発されていくものと思います。現在 177Lu-PSMA が承認に向けて議論されていますが、国会で 225Ac 製剤の国内製造に向けた質疑もあり、さらに核医学治療薬への活動が進むものと期待されています。核医学治療が進めば、線量評価も重要になっていきます。今後の動向に注視し、より良い核医学検査・治療を目指していければと思います。

増加している女性技術者への対応として女性活躍推進委員会（はなみずきの会）が学会本部で設立されました。初の会合が本年第 44 回日本核医学技術学会総会学術大会で開催されます。東北地方会からも委員が参加、意見発信し議論を盛り上げて行くことになりました。臨床業務・研究へ多くの女性技術者が参加できる環境に目を向けて行かなければなりません。東北地方会からもより協力していければと思います。今地方会の理事長講演で本部の新たなビジョンをお聞きできるものと思っております。

今回は市民公開講座の開催も予定されています。広く核医学検査・核医学治療の効果利点など市民へ伝わり、興味を持ってもらえる機会となればと思います。

開催地・青森市は海産農産物の豊富な場所です。青森県は多様で豊富な魚たちの宝庫、野菜は出荷量全国 10 位以内が 10 品目以上と聞きます。今回、久しぶりの情報交換会開催も楽しみにしています。

最後になりますが、東北地方のより高い核医学技術の発展、核医学診療の未来へ繋がりますよう、多くの皆様のご協力ご支援をお願いいたします。